
月、影踏み

宵子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
月、影踏み

【Nコード】
N0505B

【作者名】
宵子

【あらすじ】
月の影が別れを決めた二人を包みます。

（前書き）

初投稿です。お目汚しかと思いますが、読んで頂ければ幸いです。

棚引く雲が薄く月にかかる。

朧げな夜気に二人。

私は千鳥足で自らの影踏み遊び。

貴方の視線をあっちこっちと背中受ける。

私たち以外の静謐。

切なげで、包まれながら、私はこの何気ない遊びを延々と永遠にと
…していたかった。

朝は離別の時。

そつ…視線を背後で受けるのみで、私は貴方の顔を見ることが出来
ずにいる。

さぞや滑稽に映っているのでしょうか？

子供じみた遊びに興じていながら、笑い泣きをしているちっぽけな
背中。

『別れたくない』

そんなことは言えない程に離れてしまっていた。
心も、身体も。

立ち止まり、意を決して振り向いた。

彼の顔は逆光に埋まり、窺い知れなかった。
ただ、声だけが届いた。

「…ごめん。ごめんな」

月影に縁取られた私は、首を横に振ることしか出来なかった。

朝は離別の時。

月の傾きと共に、あの日在った二人も消えゆく。

「…うまくいくと、良いね」

震える唇から震えた言葉を発した。

彼の耳に届く前に、夜気に溶けてしまったかもしれない。

また影踏みを始める。

柔らかい黒の輪郭が、頼りなく揺らいでいた。

『ね』

『ふ』

『じ』

『な…』

『う』

「…さようなら」

そう、やがて。

徐々に東の空は青の濃度を高めていく。
刻々と色と明度は変化を遂げていく。

西に追いやられた月は、その最期の最後まで、
灰白い貌で私たちを見下ろしていた。

——そして、朝という終わりの始まりが訪れた。

（後書き）

淡々とした失恋話。

一人よがりな駄文にも程がございましたが、読んで下さり感謝の極みです。

励みになりますので…何卒、生暖かい目で見守りつつ応援して下さいませ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0505b/>

月、影踏み

2010年12月13日18時07分発行